「シュワイツェル校長への思い」

川島　正敏　（１期）


シュワイツェル校長

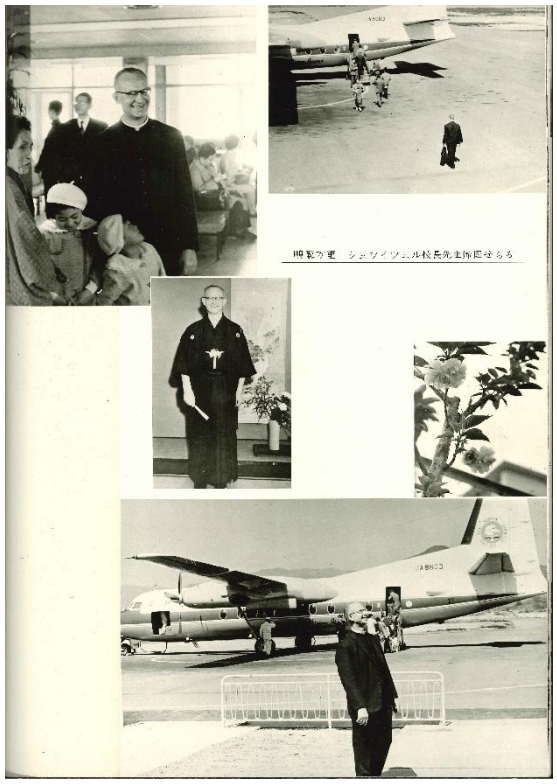
シュワイツェル初代校長を最近流行った言葉で云うならば「カリスマ校長」だったと思う。進学校の側面から広島学院を見た場合、最初の６年間は大学進学の実績がないにもかかわらず、優秀な生徒が狭き門をくぐって入学して来たことは開学前から学院ブランド作りがなされたからではないかと思う。生徒募集にあたって多くの小学校を回られたシュワイツェル校長から小学校の先生や保護者は学院のことを子供達を託するに値する学校だと強くイメージづけられたのだと思う。私の場合もその強いイメージだけで学院に入学した。

私の在校中のシュワイツェル校長は、いたずらっ子をとっ捕まえてグローブのような大きな手でお尻ぱんぱんする「わんぱく校長」であったり、倫理の授業で「社会のリーダーたれ」と教える「神父さん校長」であったり、またキャンプで大活躍する「ターザン校長」であったり、くわえタバコで工事現場で働く「土建屋校長」でもあった。(中略)やはり生徒達にとって印象的なのはキャンプでの「ターザン校長」であり、校舎やグラウンド建設の「土建屋校長」ではなかろうか。


学院建設予定地を視察する
シュワイツェル校長


工事作業中の
シュワイツェル校長

シュワイツェル校長のキャンプや工事現場での堂々たる存在感に圧倒されたものである。上のグラウンドや最初のプール工事を手伝った多くの生徒達には楽しい思い出になった。昭和 37 年 1 期生の卒業とともに校長を退任された時に贈られた和服姿の写真を見るたびに在りし日のシュワイツェル校長が偲ばれる。


和服姿のシュワイツェル校長

広島学院の半世紀　広島学院創立 50 周年記念誌』より

写真　広島学院校史資料室保管